

自然観察会等のポイント・ガイドライン

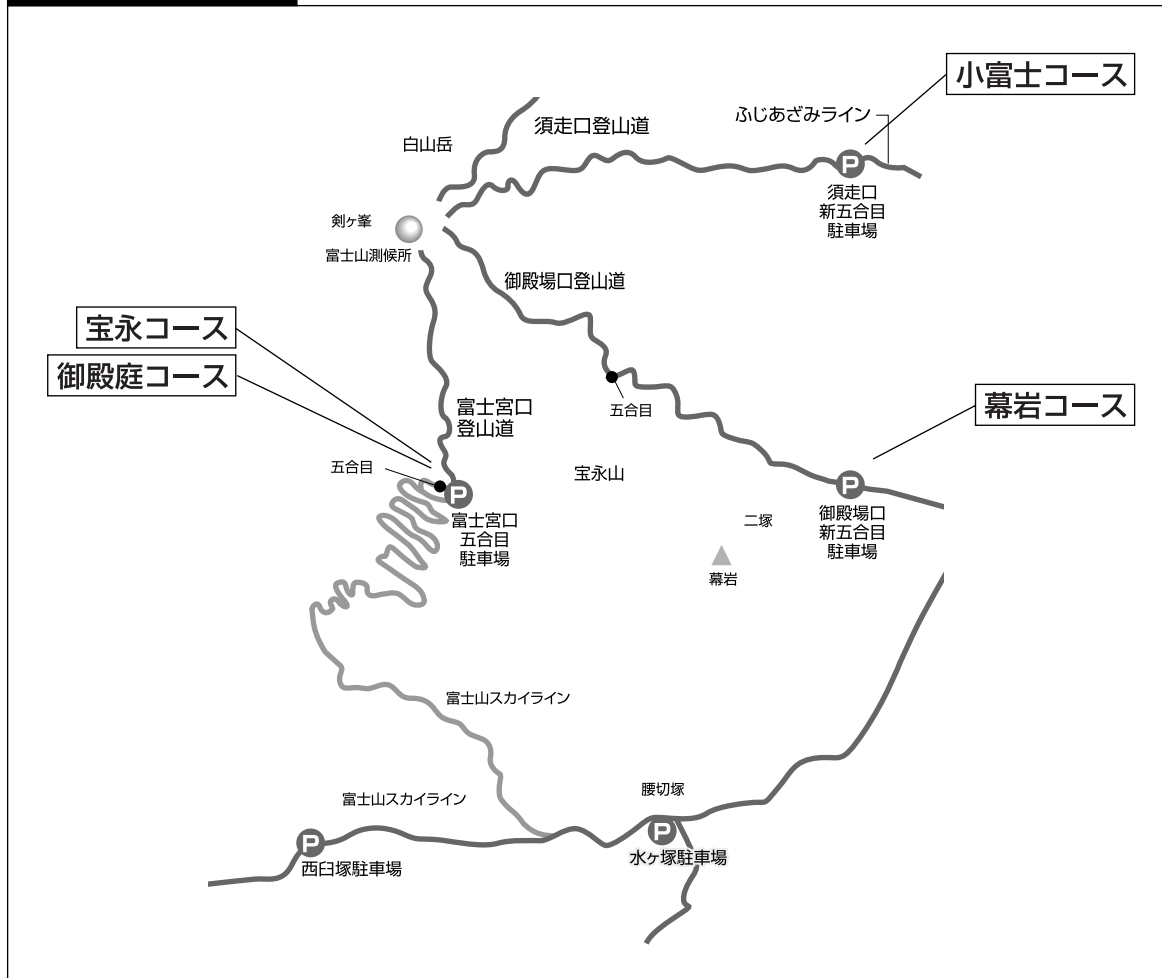


平成19年1月

静岡県環境森林部自然保護室

自然観察会等のポイント

コース位置図



○ 自然観察会等のポイント

1 目的

富士山南麓コースの自然環境を保全し、その適正かつ持続的な利用を図りながら、魅力的な自然観察会等を実施するための参考となるポイントをまとめる。

2 コース別自然観察のポイント

(1) 宝永コース

森林限界の樹木や高山植物を観察しながら宝永噴火による赤岩や火口の自然の素晴らしさを体験する。

(2) 御殿庭コース

標高差が1,000mあるため、森林限界から樹林帯までの植物の垂直分布を体験する。

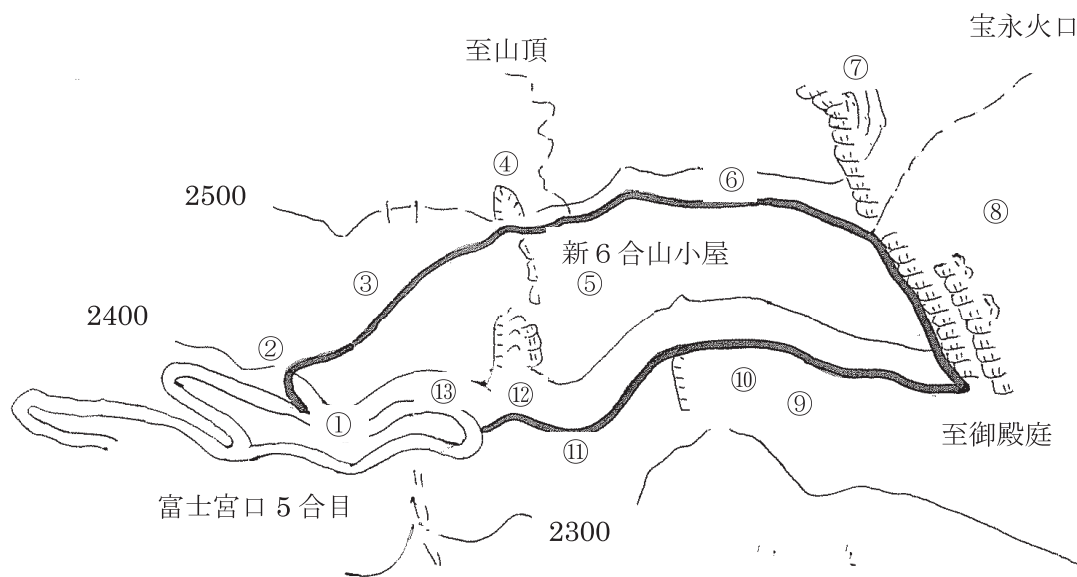
(3) 幕岩コース

宝永噴火の影響による火山荒原と森林限界、樹林帯を観察する。

(4) 小富士コース

小富士の成り立ちと富士講修験者を中心とした信仰文化について考える。

3-1 宝永コース



- ①登山歩道 (コース) 入口
 (ポイント) 森林限界
 森林限界の特徴。人との関わり。森林限界周辺の木本、草本植物。
 (ポイント) 特別保護地区
 自然公園法による特別保護地区であること。同法の規制など。



- ②環境省トイレ
 (ポイント) 環境配慮型トイレ
 環境問題と富士山トイレの変遷。仕組み。理想のトイレ (持ち帰り)。チップへの協力の呼び掛け。



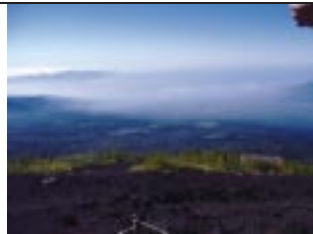
- ③オンタデ等のパッチ
 (ポイント) パッチ
 パッチの成り立ち。森林への移行。



- ④新6合目山小屋手前の岩
 (ポイント) ひび割れの入った石
 ひび割れの原因、この石の将来。



④新6合目山小屋手前の岩
(ポイント) こけ、地衣類
富士山の地衣類の特徴。



⑤新6合目山小屋
(ポイント) 360°の眺望
山、海の景観。
(ポイント) オガクズトイレ
し尿分解の仕組み。

⑥御中道

(ポイント) 御中道

富士講との関係。(3回以上登頂しないと歩けなかった) 現在の御中道



(ポイント) 風衝木

風衝樹形の成り立ち。風の強さ。高木になるカラマツがハイマツ風に成長。なぜ富士山にはハイマツがないのか。氷河期と富士山の関係。

(ポイント) 肥料植物

根粒菌と共生して空気中の窒素を固定。ミヤマハンノキの落葉に栄養があること。



⑦宝永山と赤岩

(ポイント) 宝永山と赤岩

宝永噴火の歴史(被害等)。赤岩の成分と宝永噴火。

⑧第二火口西側斜面と東側

(ポイント) 植生の特徴

強い西風と地盤の安定度による西側と東側の植生の特徴。風砂。植物の富士登山。

⑨森林限界下部の森

(ポイント) 樹高と土壌の安定

土壌の安定度と樹高。先駆植物(草本)の役割(土壌)。カラマツからシラベへの変化。



⑩森林内

(ポイント) 動物による食害

樹皮はぎ問題。動物の種類、食べられる植物。食べる部位。食べられるとどうなるか。枯れ方の特徴。人間との関わり。

(ポイント) 似通った植物の見分け方

トウヒとシラビソなど。

(ポイント) 葉の手触り

同じ針葉樹の葉の硬さ・柔らかさとその理由。

⑩森林内

(ポイント) シカ、カモシカ、うさぎ、ねずみのふん、足跡

糞から、何を食べているかの解説、足跡の特徴(アニマルトラッキング)動物の生活。昔と今の生息域の違いとその理由。

(ポイント) 木の名札

昔と今の名札の付け方(昔は釘を打ち付けていた)。この方法では、広葉樹は枯れないが、針葉樹では枯れる。その原因。



⑪コースと村山口登山道の交差点

(ポイント) 村山口登山道・山室跡

村山登山道の歴史、修験道、村山浅間神社。



⑫谷

(ポイント) 谷の植生

礫。礫の移動と植生の関係。

⑬駐車場

(ポイント) 折れ曲がった鉄骨

雪による加重で曲がっている。雪の特徴。

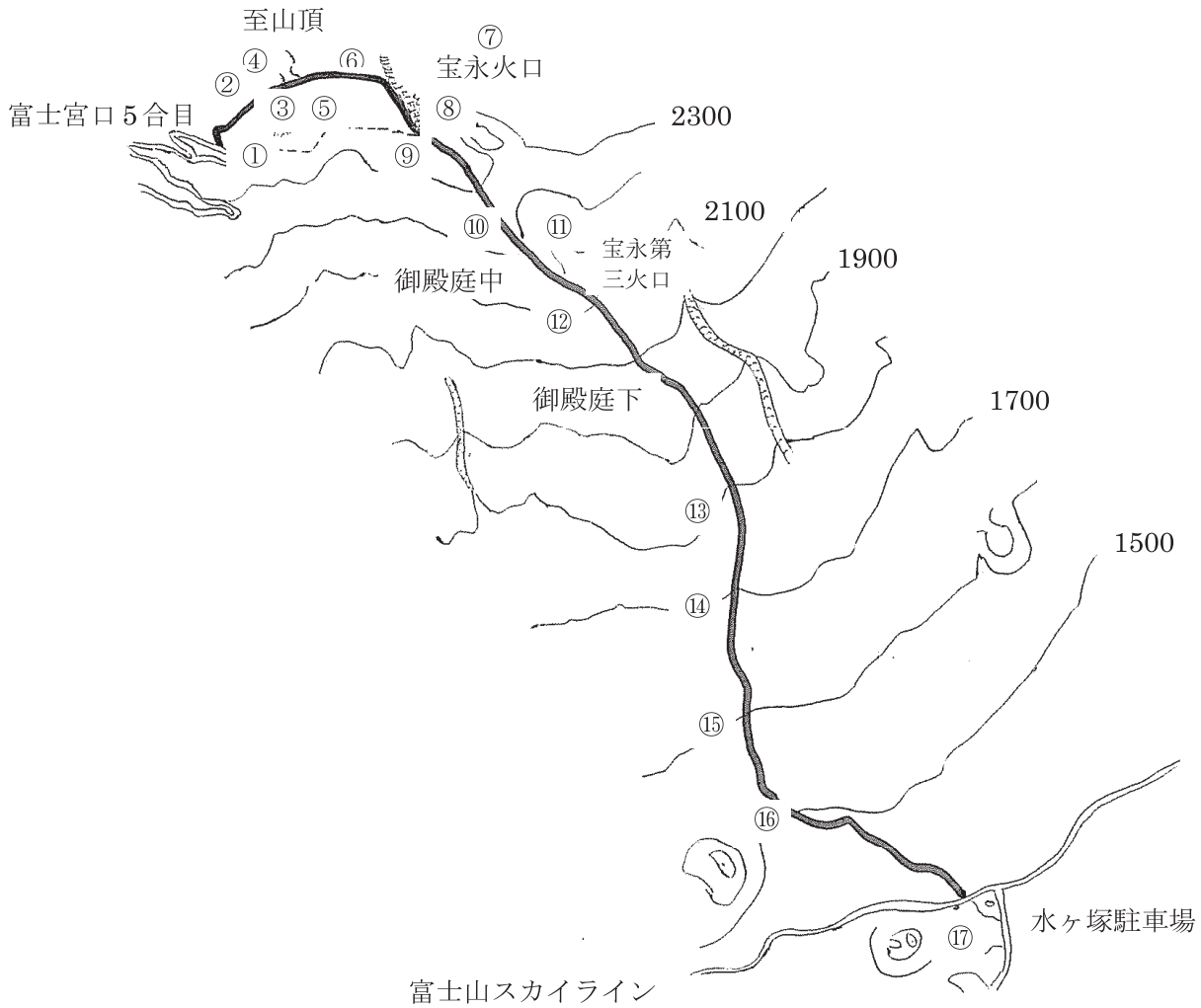
(ポイント) 昔のごみ箱の跡

昔と今のごみ処理の考え方(持ち帰り)。

このコースで観察ができる動植物

動物		ニホンカモシカ、ニホンジカ、ノウサギ、キツネ、テン、オコジョなど
野鳥		アマツバメ、ホシガラス、ルリビタキ、ウソ、ビンズイ、イワヒバリ、カヤクグリ、シジュウカラ、コガラ、ハシブトガラス、ノスリなど
木本	荒原地	カラマツ、ミヤマハンノキ、ダケカンバ、ミヤマヤナギ、コケモモなど
	樹林帯	シラビソ、トウヒ、コメツガ、ナナカマド、タカネバラ、ハナヒリノキなど
草本	荒原地	フジハタザオ、ミヤマオトコヨモギ、ムラサキモメンヅル、イワオウギ、タイツリオウギ、オンタデ、イタドリ、メイゲツソウ、ヤマホタルブクロ、イワツメクサ、コタヌキラン、ヒメノガリヤスなど
	樹林帯	ヤハズヒゴタイ、コバノイチヤクソウ、マイヅルソウ、ベニバナイチヤクソウ、ミヤマアキノキリンソウ、シオガマギク、ミヤマニンジン、ヤマブキショウマ、キオン、タカネグンナイフウロ、クルマユリ、ヒメシャジン、ミヤマシャジンなど

3-2 御殿庭コース



コース全体をとおして

植物の 垂直分布	火山荒原からブナ帯までの観察。優占種の変化。宝永噴火の影響による違い。土壌層の違い。林内の匂いの変化。陽樹と陰樹。極相。 ○ 観察しておきたい樹木 タカネザクラ (標高 2300m) ウラジロノキ (標高 2300m) ミズナラ (標高 2050m) ブナ (標高 1950m)
野生動物	他の山との違い (希少性、特徴)。



- ①登山歩道（コース）入口
（ポイント）森林限界
森林限界の特徴。人との関わり。森林限界周辺の木本、草本植物。
（ポイント）特別保護地区
自然公園法による特別保護地区であること。同法の規制など。



- ②環境省トイレ
（ポイント）環境配慮型トイレ
環境問題と富士山トイレの変遷。仕組み。理想のトイレ（持ち帰り）。チップへの協力の呼び掛け。



- ③オンタデ等のパッチ
（ポイント）パッチ
パッチの成り立ち。森林への移行。



- ④新6合目山小屋手前の岩
（ポイント）ひび割れの入った石
ひび割れの原因、この石の将来。



- ④新6合目山小屋手前の岩
（ポイント）こけ、地衣類
富士山の地衣類の特徴。



- ⑤新6合目山小屋
（ポイント）360°の眺望
山、海の景観。
（ポイント）オガクズトイレ
し尿分解の仕組み。

- ⑥御中道
（ポイント）御中道
富士講との関係。（3回以上登頂しないと歩けなかった）現在の御中道。



(ポイント) 風衝木

風衝樹形の成り立ち。風の強さ。高木になるカラマツがハイマツ風に成長。

(ポイント) 肥料植物

根粒菌と共生して空気中の窒素を固定。ミヤマハンノキの落葉に栄養があること。



⑦宝永山と赤岩

(ポイント) 宝永山と赤岩

宝永噴火の歴史（被害等）。赤岩の成分と宝永噴火。

⑧第二火口西側斜面と東側

(ポイント) 植生の特徴

強い西風と地盤の安定度による西側と東側の植生の特徴。風砂。植物の富士登山。



⑨周遊コースとの境

(ポイント) 山体変動観測装置

設置の理由。活火山であること。ハザードマップ。



⑩御殿庭中

(ポイント) 御殿庭の名前

名前の由来。

(ポイント) カラマツとシラベ

先駆植物のカラマツとシラビソの関係。

(ポイント) 針葉樹

シラベとトウヒの見分け方等。

(ポイント) 葉の手触り

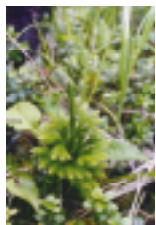
同じ針葉樹の葉の硬さ・柔らかさとその理由。

(ポイント) 野鳥

カラ類。鳴き声の違い。

(ポイント) ニホンジカ

樹皮はぎ問題。食べる植物。食べる部位。食べられるとどうなるか。枯れ方の特徴。遷移の変化。人間との関わり（住処）。昔と今の違い。林床植生の単一化。



⑪2150m付近

(ポイント) 万年杉

特徴。希少性。

⑫2100m付近

(ポイント) 富士市、裾野市、御殿場市の市境
市境、県境、頂上の所有者。



⑬1800m付近

(ポイント) 村山修験場跡
村山修験者、村山浅間神社の歴史、文化。



⑬1800m付近

(ポイント) 風倒木

台風被害の説明。倒木の脇から新しい世代が生長。根が深く張らないことから、地質の特徴。



⑬1800m付近

(ポイント) 巨木の森

宝永噴火の被害がなかったこと。樹木の種類。

(ポイント) めたば

外見の特徴。どんな動物が何のために何をするのか。動物の種類。

⑭歩道が尾根から谷へ

(ポイント) 草本の種類

尾根と谷の気象条件(風、受光)と生育する植物の違い。

⑮1600m付近

(ポイント) アサギマダラ

渡りをする蝶の説明。



⑯1500m付近

(ポイント) ブナ帯

ブナ帯文化論。

(ポイント) 人工林と天然林

ブナ林からウラジロモミの人工林への変化。歴史的背景。



⑰水ヶ塚公園

(ポイント) 獣道

動物の種類。

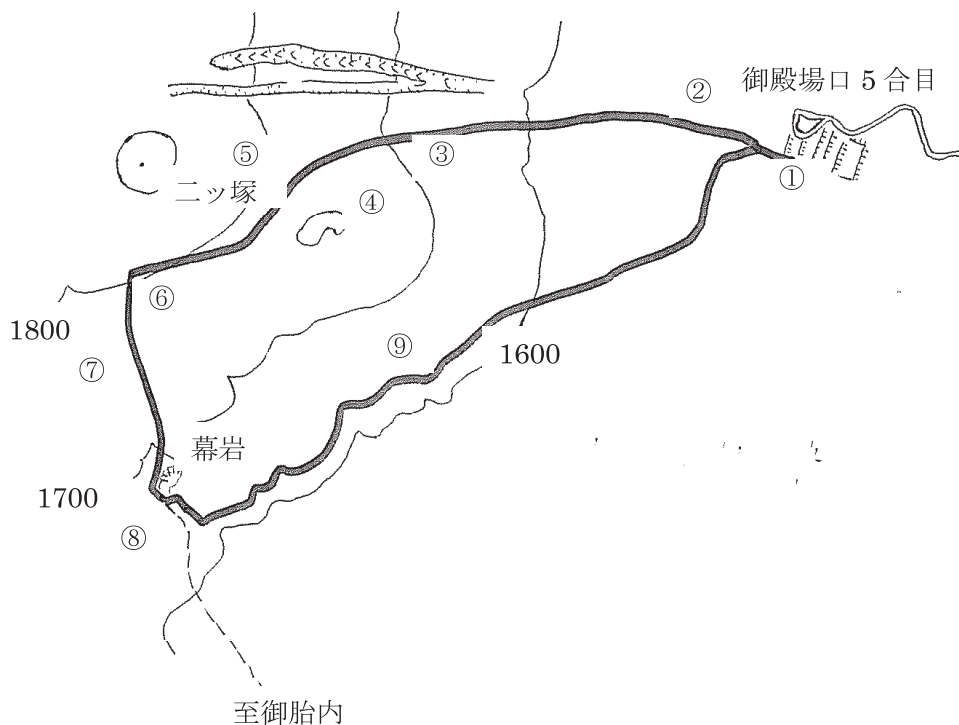
(ポイント) 森林限界が見える

宝永噴火と森林限界の関係。

このコースで観察ができる動植物

動物		ニホンカモシカ、ニホンジカ、ノウサギ、キツネ、テン、オコジョなど
野鳥		アマツバメ、ホシガラス、ウソ、ビンズイ、イワヒバリ、カヤクグリ、ルリビタキ、ジュウカラ、コガラ、ハシブトガラス、ノスリなど
木本	荒原地	カラマツ、ミヤマハンノキ、ダケカンバ、ミヤマヤナギ、コケモモ
	森林限界	シラビソ、トウヒ、コメツガ、ナナカマド、タカネバラ、ハナヒリノキ、コケモモなど
	シラベ帯	ウラジロモミ、ヤマハンノキ、ヤハズハンノキ、シナノキ、コケモモ
	ブナ帯	ブナ、ミズナラ、ヒメシャラ、シナノキ、オオカメノキ、トウゴクミツバツツジ、サラサドウダン、ノリウツギ、ヒロハツリバナ
草本	荒原地	フジハタザオ、ミヤマオトコヨモギ、イワオウギ、タイツリオウギ、オンタデ、イタドリ、メイゲツソウ、イワツメクサ、コタヌキラン、
	宝永火口から御殿庭上	ムラサキモメンヅル、ヤマホタルブクロ、ヤハズヒゴタイ、ミヤマニンジン、コバノイチヤクソウ、アオスズラン、クルマユリ、ヒメノガリヤス
	御殿庭上から御殿庭中	ミヤマフタバラン、ツバメオモト、ヒメノガリヤス、コバノイチヤクソウ、アオスズラン
	御殿庭中から風倒木	コイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、キンレイカ、マンネンスギ、ツバメオモト、ミヤマフタバラン
	風倒木から御胎内分岐	カニコウモリ、コウモリソウ、テンニンソウ、シロヨメナ、キンレイカ、他多種となる。
	御胎内分岐から人工林	ツルシロカネツソウ、トウゴクサバノオ、シロバナノヘビイチゴ、イトスゲ、ヤマクワガタ、スダヤクシュ、イワギボウシ（着生）など

3-3 幕岩コース



①駐車場上
 (ポイント) 人工的な植栽
 植栽されている植物。植栽理由。



②沢、砂礫地
 (ポイント) 植生の特徴
 宝永噴火。300年間の歴史。雪崩と植生の関係。
 (ポイント) 雪崩
 宝永噴火。地質との関係。雪崩の被害。



③砂礫地
 (ポイント) アカネズミ
 1670m 付近の砂礫地に棲息している動物の食べ物。
 行動範囲。



③砂礫地

(ポイント) フジアザミ

花の茎のみを食べるウサギの食害の特徴。成熟しない種。
毛虫の食害。食害が増加している理由。



③砂礫地

(ポイント) パッチ

パッチとは。パッチの中にカラマツなどの木本植物が生えているものがある。長い年月をかけて、火山荒原から森林へと移行する。



③砂礫地

(ポイント) 植物遷移

森林帯、草原、砂礫地帯への遷移の理由。



④二ツ塚山頂

(ポイント) 側火山

富士山頂、宝永山山頂、二ツ塚山頂。測火山の特徴。
場所

(ポイント) 景観

東から、金時山、箱根山、愛鷹山、伊豆半島、駿河湾、三保、南アルプス、西の天子ヶ岳、富士山頂、宝永山頂まで 360° の景観。天候により雲海も見られる。



④二ツ塚山頂

(ポイント) 植物の富士登山

30年前との変化。将来の姿、宝永山、富士山の斜面を植物が上へ上へと上っていく様子。



④二ツ塚山頂

(ポイント) 鳥居と石碑

何を意味しているか。設置された理由。



⑤二ツ塚コル

(ポイント) オフロードによる轍

オフロードの乗り入れによる植生破壊、行政の取り組みを紹介。



⑥草原

(ポイント) 木本の生育状況

草原の中にはカラマツが生育しはじめている。トウヒとグミの一種がわずかに混じる。



⑦木本が生育し始めている所

(ポイント) アカマツ、カラマツ、ゴヨウマツ。

違い、見分け方

(ポイント) 葉の手触り

同じ針葉樹の葉の硬さ・柔らかさとその理由。



⑧幕岩

(ポイント) 崖

名前の由来。崖ができる場所、理由。幕岩が植物により見えなくなっていることの原因。



⑨森林内

(ポイント) 人工林と自然林

歩道の下側がウラジロモミの人工林、上側が自然林。人工林植林の理由。管理の難しさ。人工林は放置された状態では樹木密度が高く林床に光が入らないため、草がほとんど生えていない。このような所では雨水による表土の流出がある。自然林は明るく、スズタケや草が生えている。

(ポイント) 樹林帯

ブナ帯とシラベ帯の境界附近の森林で多くの樹種が見られる。森が人に与える恩恵。

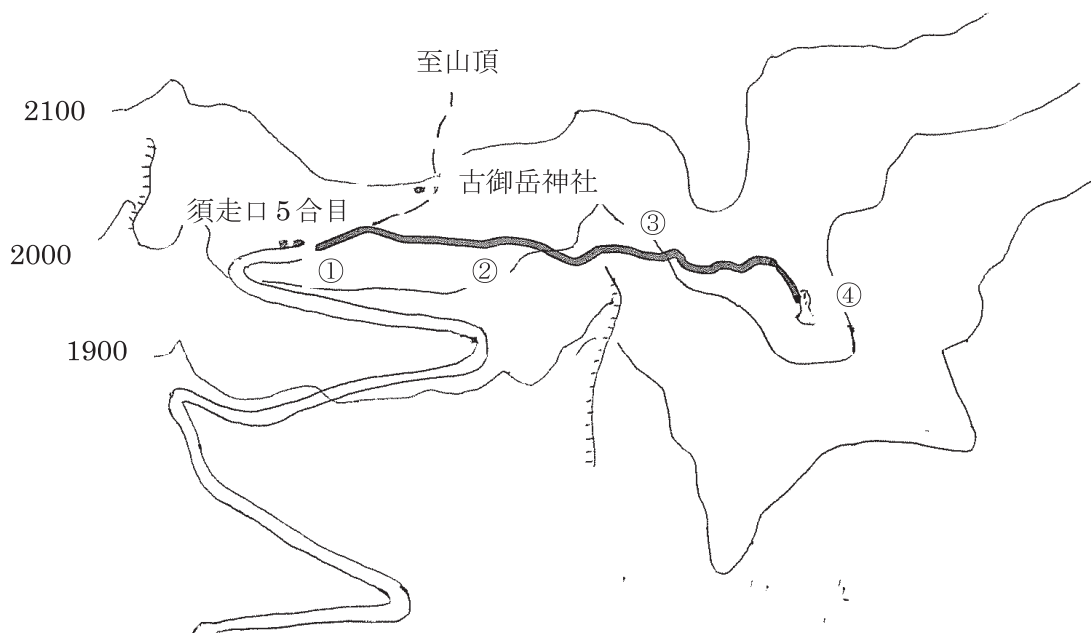
(ポイント) 動物の痕跡

シカ、イノシシ、ノウサギ、リス等の痕跡の見分け方。

このコースで観察ができる動植物

動物		ニホンカモシカ、ニホンジカ、ノウサギ、アカネズミ、ニホンリスなど
野鳥		ウソ、ビンズイ、アカハラ、メボソムシクイ、ヒガラ、コルリ、ミソサザイ、ハシブトガラス、トンビなど
木本	荒原地	カラマツ、ミヤマハンノキ、バッコヤナギ、ダケカンバ、ミヤマヤナギ、コケモモなど
	樹林帯	アカマツ、ミズナラ、イタヤカエデ、ヒメシャラ、クマシデ、ミズキ、シラビソ、ブナ、トウヒ、グミ、ウラジロモミ、コメツガ、ナナカマド、オオカメノキなど
草本	荒原地	フジアザミ、クサボタン、フジイバラ、フジハタザオ、カリヤスモドキ、ヒメノガリヤス、ミヤマオトコヨモギ、コガネギク、コウゾリナ、オンタデ、イタドリ、ヤマホタルブクロ、コタヌキランなど
	樹林帯	ミヤマモジズリ、スズタケなど

3-4 小富士コース



①山小屋前
 (ポイント) カラマツ林
 景観の変化 (20年前は樹高が低く、山小屋前から山中湖が見えた)。



②森林内
 (ポイント) マイズルソウ、カニコウモリ等
 葉の特徴、名前の由来。
 (ポイント) ウラジロモミ、トウヒ、シラビソ
 針葉樹の見分け方。カラマツ、ダケカンバ→ウラジロモミ、トウヒという植生の変化 (遷移)。稚樹の更新。



(ポイント) 葉の手触り
 同じ針葉樹の葉の硬さ・柔らかさとその理由。
 (ポイント) 南麓の森林に比べてトウヒが少ない
 場所による植生の特徴。
 (ポイント) 世代交代・倒木更新
 広葉樹から針葉樹への変化。光の奪い合い。



②森林内

(ポイント) 根が露出している

原因、影響。

(ポイント) 倒木の年輪

年輪の数、幅、どちらかに偏っているか、平地の年輪との比較。

(ポイント) 300年の歴史による植生

宝永噴火。2000mでシラベ帯であるが、ミズナラ等が侵入してきている。

(ポイント) 他のコースに比べて鹿の食害が少ない

鹿の好まない木が多いのか、原因。

(ポイント) 溶岩の上に根が伸びている風景

宝永噴火との関わり。年輪が密になる理由。

(ポイント) 大きな溶岩

噴火、成分。

③森林内

(ポイント) 修験場跡

富士講の歴史。修験者。



④小富士山頂

(ポイント) 小富士

小富士の歴史。側火山、富士講について

(ポイント) 景観

東面から見る優美な姿を『白扇倒懸東海天』とも言われている。

(ポイント) 溶岩荒地

植物の富士登山。側火山。オフロード車進入による植生破壊。

(ポイント) 各5合目の湿度、雨量、気温等の違い
標高の違いによる特徴やコースによる特性。

このコースで観察ができる動植物

動物	ニホンカモシカ、ニホンジカ、ノウサギ、リス、ノネズミ、イノシシ
野鳥	ホシガラス、ルリビタキ、ウソ、ビンズイ、イワヒバリ、カヤクグリ、コガラ、サメビタキ、ミソサザイ、アカハラ、アオバト、キクイタダキ、ウグイス、トラツグミ、モズ、シジュウカラ、ルイビタ、ヒバリ、トンビ、ヤマドリ、キビタキ
木本	カラマツ、ダケカンバ、シラビソ、トウヒ、ウラジロモミ、ミズナラ、ミヤマヤナギ、ミヤマハンノキ、コメツガ、オオカメノキ、シャクナゲ、ナナカマド、タカネバラ、ミネザクラ、サラサドウダン、ツタウルシ、コケモモ
草本	フジハタザオ、ミヤマオトコヨモギ、イワオウギ、ムラサキモメンヅル、ヒメノガリヤス、フジアザミ、マイヅルソウ、タケシマラン ツバメオモト、コイチヤクソウ、カニコウモリ、オンダテ、イタドリ、メイゲツソウ、ミヤマホタルブクロ、クルマユリ、ヒメシヤジン、アキノキリンソウ、タケシマラン、マイヅルソウ、コバノイチヤクソウ、ベニバナイチゴ、タカネナデシコ、タカネヤハズハハコ、フジアザミ、オオイワカガミ、ツガザクラ

自然観察等ガイドライン

○ 自然観察等ガイドライン

1 目的等

富士山南麓コース（宝永コース、御殿庭コース、幕岩コース、小富士コース）の自然環境を保全し、その適正かつ持続的な利用を図るため、自然観察会等の目的で立ち入る主催者及び参加者において配慮した方が好ましい内容を提示する。

なお、本ガイドラインは、静岡県自然保護室が中心となり、環境省沼津自然保護官事務所、林野庁静岡森林管理署、静岡県観光コンベンション室、富士山自然休養林保護管理協議会（事務局：富士宮市商工観光課）、富士宮自然観察の会、小山秀峰山岳会の協力を得て作成したものである。

今後、実情の変化に応じ、適宜改正を行っていくこととする。

2 コース共通ガイドライン

(1) 質の高い案内人

自然観察会を開催する場合は、当該コースの自然環境や歴史文化等についての豊かな知識と自然保護への深い理解を有し環境教育ができる者が案内人として同行する。

(2) ガイドラインの熟知

主催者は、このガイドラインの目的・内容を案内人に熟知させかつ遵守させるよう、責任をもって案内人の研修を行う。

(3) 事前オリエンテーションの実施

主催者及び案内人は自然観察会開始前に参加者に対して、環境への負荷軽減や安全面の心構えなどについて説明を行う。

(4) 1団体あたりの参加人数、案内人の数

1団体あたりの参加人数は、環境への負荷軽減や案内人の掌握力を勘案し、最大20人を目安とする。また、案内人の数は、参加者概ね10名につき1名を目安に配置する。

(5) 1列歩行の励行、解説時の拡幅禁止

案内人は歩道を原則として1列で歩かせ、立ち止まって自然解説を行う際は、参加者に列を崩させたり拡幅させたりしない。解説中に他の歩行者の歩行の妨げにならないように解説の場所に配慮する。

(6) ごみの回収等

強風により帽子等携行品やゴミ袋等が飛ばされないように注意するとともに、袋を携行し、ごみを発見した際には回収を励行する。

(7) ストックの使用

植生保護と崩壊防止のため、ストックは出来るだけ使用しない。使用する場合は先にキャップを装着する。

(8) 禁止行為

- ・登山道・遊歩道以外の立ち入り

- ・動植物の採取、樹木の伐採等

動植物の採取、樹木の伐採・枝折り、溶岩・岩石・土壌など一切の自然物の採取・移動を行わない。

- ・ペットの持ち込み

犬等のペットに付着する細菌等により、動植物に害を与える恐れがある。

- ・マーキング

ルートの目印として、樹木にテープやペイント等によるマーキング行為はしない。発見したマーキングの痕跡は、その都度取り除くよう心がける。

- ・たき火、野営

- ・野外排泄

トイレ以外の場所で野外排泄は行わない。万一の必要に備え、携帯トイレを携行する。

(9) 荒天時の中止等の決断

標高2000m前後の山岳コースであることを考慮し、大雨注意報等が出ている状況では

主催者及び案内人は、コースの変更や中止の決断を誤らないこと。

(10) 安全対策

主催者は参加者の安全対策に万全を期すとともに、非常時における危機管理体制を整えておく。また企画・実施にあたり無理な日程設定や危険なメニューの盛り込みは行わない。

(11) 保険加入

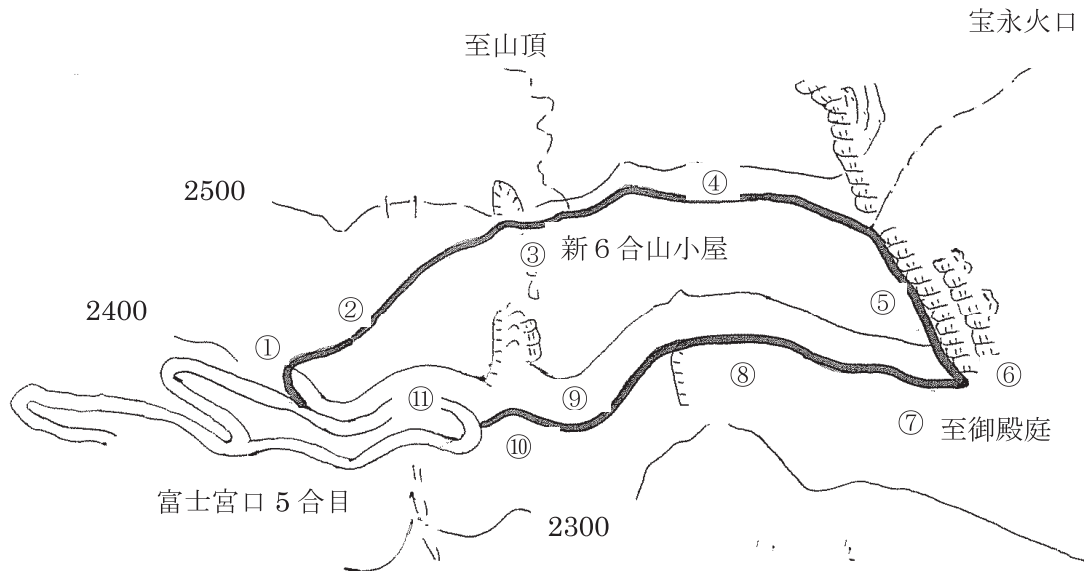
主催者は賠償保険等に参加するとともに、参加者に対し、その旨を明示する。

(12) 救急体制

案内人は応急手当等の技術を身につけるとともに、救急薬品などを携行する。主催者は参加者に怪我人・急病人が出た場合、速やかに地元病院・消防との連携による救急体制を確保する。

平成 19 年 1 月 15 日

3-1 宝永コースガイドライン



コース全体として

状 況	ガイドライン
標高 2,400mの高山	雨具や防寒具、行動食を持参することを事前に連絡する。
国立公園特別保護地区	法令遵守（木竹の採取・損傷、ごみ捨て、動物捕獲、植物採取、落葉落枝採取、土石採取、焚き火、キャンプの禁止）の事前説明。
看板が見えにくかったり、破損しているものがある	地図、コンパスを持参する。



①登山道入口広場

(状況) 立入り、踏込みにより法面砂礫の崩壊が目立つ。根の露出。

→ コース全体の解説をここでしない。ロープ外には出ない。土壌露出による植物への影響を解説。併せて「歩き方」を解説する。



②登山道

(状況) 登山道とブル道が並行し崩れ易い、ブル道を歩行する者がいる。

→ 植物保護、崩落防止のため、登山道以外は歩行しない。



③新6合目山小屋手前

(状況) 登山道から外れた場所にケルンが積上げられ、本来登山道ではない箇所の植生が損傷する恐れがある。

→ 崖上部のため、近づかない。土石採取禁止。採取により小動物の生息環境に悪影響を与える恐れがある。不必要な人工物は作らない。

④御中道

(状況) コケモモの実を取るために人が立入り、カラマツの植生を傷めている。

→ 国立公園特別保護地区内の植物採取禁止。一度破壊された植物が再生するまでの期間のことを解説。



⑤急な下り坂

(状況) 歩道の位置が不明確なため尾根全体を歩行して植物が、傷つけられている。

→ なるべく真ん中を歩行。

(状況) 強風や濃霧時はガイドロープのない尾根道は危険。

→ 隊列を組んで前後者の間を短く保つ(特に霧のときは要注意)。

(状況) 転倒の危険

→ 平坦な歩道から急な下り坂になるので、再度歩き方の確認、注意を促す。

⑥森林内手前の曲がり角

(状況) 曲がり角を近道して下る者がいるため、植生が破壊されている。

→ 登山道以外は歩行しない。植生保護を解説。

⑦森林内入口

(状況) 道幅が狭くなる。

→ 一列歩行の徹底。前の人と同じコースを歩く(歩道を拡張させない)。



⑧森林内

(状況) 古い丸太の柵が壊れ、釘がむき出して危険。

→ 歩行中はよそ見せず、歩行停止中に周りを観察する。一列歩行。前後の距離を十分にとる。

(状況) 遊歩道に張りでた樹木の枝により怪我の危険がある。

→ 隊列を組んで歩行する場合、目や顔を払い、怪我のおそれがあるため、注意を促す。

(状況) 遊歩道が幾通りかに分かれている。歩道が不明確になっているところがある。

→ 植生が荒廃し、土砂崩壊をさらに進めるため、全員が同じ道を通るようにする。

⑨森林内

(状況) 1メートル程度の段差がある。

→ 一人ずつ注意して歩行。



⑩崖

(状況) 沢崩れの進行により歩道脇が崖になっている。

→ 足元を十分注意して山側を一列歩行。



⑪駐車場

(状況) 外来植物が生育している (スズメノカタビラが多い)。
→ 外来種の持ち込み禁止。

(状況) 駐車場のためごみが散乱している。樹木帯に落としている。
→ ごみが環境に与える影響を解説。ごみの持ち帰り。ごみ拾いの徹底。

3-2 御殿庭コースガイドライン



コース全体として

状況	ガイドライン
標高差が 1000 ほどある。	十分な体力と体調の維持、天候の変化が大きいことを事前に連絡する。
通常 3 時間ほど歩くコースに関わらず宝永火口から下は 1 つもトイレがない。	携帯トイレの持参を要求する。
かかり木が歩道上にある。	下だけを見て歩かない。周りを観察するときは立ち止まる。
距離表示・標高・歩行時間等の情報が少ない。	事前に十分調査し、余裕を持った行動をする。
近づきただけでかぶれる植物など、途中で説明すると間に合わないことがある。	入山口で最初に説明する。
クマ等との接触。	熊鈴等を持参し、近距離での接触を回避する。



①登山道入口広場

(状況) 立入り、踏込みにより法面砂礫の崩壊が目立つ。根の露出。

→ コース全体の解説をここでしない。ロープ外には出ない。土壌露出による植物への影響を解説。併せて「歩き方」を解説する。



②登山道

(状況) 登山道とブル道が並行し崩れ易い、ブル道を歩行する者がいる。

→ 植物保護、崩落防止のため、登山道以外は歩行しない。



③新6合目山小屋手前

(状況) 登山道から外れた場所にケルンが積上げられ、本来登山道ではない箇所の植生が損傷する恐れがある。

→ 崖上部のため、近づかない。土石採取禁止。採取により小動物の生息環境に悪影響を与える恐れがある。不必要な人工物は作らない。

④御中道

(状況) コケモモの実を取るために人が立入り、カラマツの植生を傷めている。

→ 国立公園特別保護地区内の植物採取禁止。一度破壊された植物が再生するまでの期間のことを解説。



⑤急な下り坂

(状況) 歩道の位置が不明確なため尾根全体を歩行して植物が、傷つけられている。

→ なるべく真ん中を歩行。

(状況) 強風や濃霧時はガイドロープのない尾根道は危険。

→ 隊列を組んで前後者の間を短く保つ(特に霧のときは要注意)。

(状況) 転倒の危険

→ 平坦な歩道から急な下り坂になるので、再度歩き方の確認、注意を促す。

⑥森林内手前の曲がり角

(状況) 曲がり角を近道して下る者がいるため、植生が破壊されている。

→ 登山道以外は歩行しない。植生保護を解説。



⑦御殿庭中

(状況) 遊歩道は地盤が硬く、雨天時は川となる。

→ 雨天時の歩行に十分注意する。

(状況) ニホンシカ等による食害。

→ ニホンシカ等に遭遇した場合は冷静に対処するよう伝える。

(状況) 急斜面の所がある。

→ 植生保護と歩道を拡張させないために1列歩行を徹底させる。



⑧1800m付近

(状況) 風倒木が歩道近くにある。

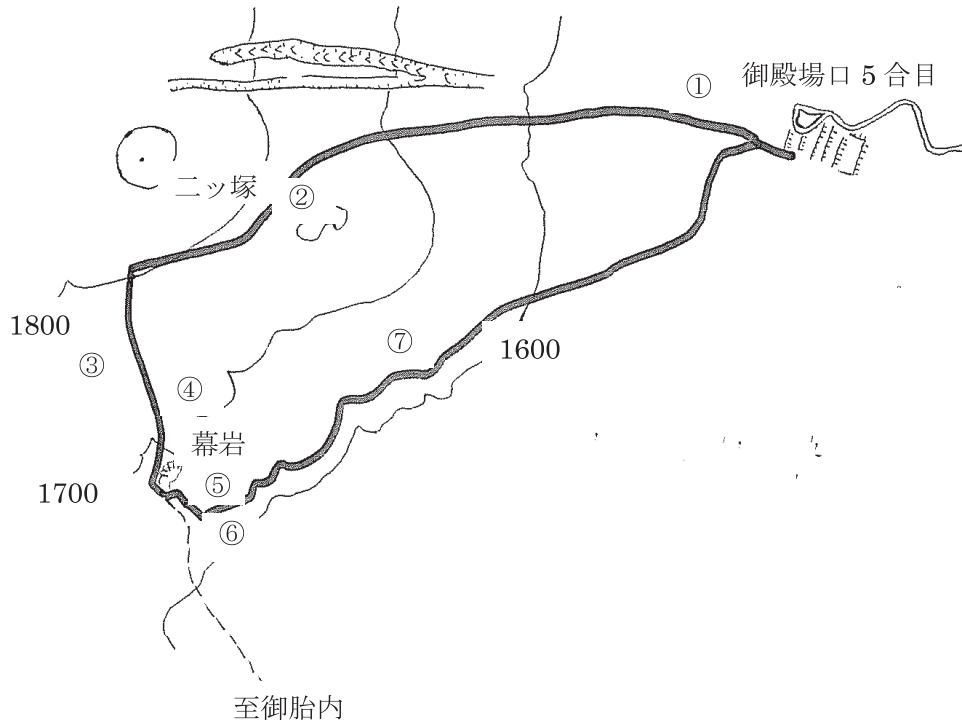
→ 倒木に触らない。倒壊の恐れがあるため、頭上や足下の注意を呼びかける。休憩場所として適さない。

⑨水が塚駐車場手前の歩道

(状況) 周りに笹が茂っており、見通しが悪い。

→ 熊等の突然の出現に注意する。鈴等の音を鳴らす。

3-3 幕岩コースガイドライン

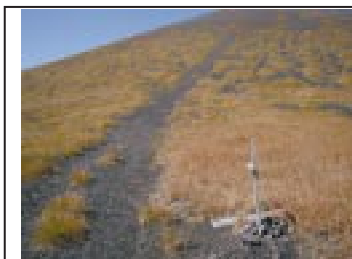


コース全体として

状況	ガイドライン
通常3時間ほど歩くコースに関わらず大石茶屋以外はトイレがない。	携帯トイレを持参する。
かかり木が歩道上にある。	下だけを見て歩かない。周りを観察するときは立ち止まる。
距離表示・標高・歩行時間等の情報が少ない。	事前に十分調査し、余裕を持った行動をする。
クマ等との接触。	熊鈴等を持参し、近距離での接触を回避する。



①沢、砂礫地
 (状況) ロープ等がなく、登山道から外れて歩行が可能。
 → 植生を破壊し、土砂崩壊を進めてしまうため、歩道外は歩行しない。



②ニツ塚の上側の塚
 (状況) 人為的に歩道ができてしまっている。
 → 下側の塚だけに登り、上側の塚は登らない。



③幕岩へ下りの歩道

(状況) 道標として白ペンキを塗った杭が設置されているが、道標間の距離が長い。歩道がはっきりしない。

→ 植生保護のため、列を乱さず、歩行する。特に荒天時は、道標を見逃しやすいので注意して歩行する。



④幕岩上部

(状況) 急坂でかつ崖になっているがロープ等がなく危険。

→ ゆっくり一列歩行し、崖の上部に近づかない。



⑤幕岩

(状況) 崖の下まで近づくことができる。

→ 崩壊の危険があるため、近くに近づかない。



⑥幕岩下部

(状況) ロープはあるが、足元が岩盤になっている。

→ 濡れている場合は滑りやすいので、できるだけ山側を歩行する。

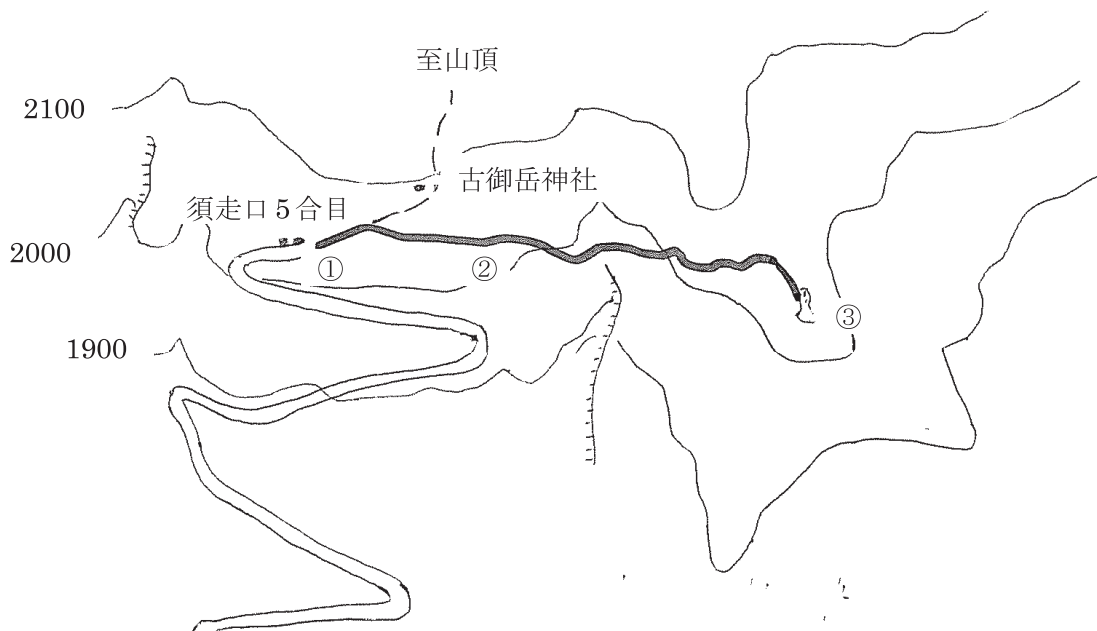


⑦森林内

(状況) 木製の橋

→ 老朽化しているため、一人ずつ慎重に渡る。

3-4 小富士コースガイドライン



コース全体として

状 況	ガイドライン
手軽なコースであるため、軽装の利用者が多い。	手軽なコースだが、歩道内への根の張りだしや、高山による天候の変化もあるため、装備の確認は十分行う。



①入口
 (状況) 階段が急で段差が大きい。
 → 足元注意。ゆっくりした歩行。



②森林内
 (状況) 歩道が広がったり、2本になったりしている。
 → 歩道が広がらないように1列歩行の徹底。



(状況) 木の根が露出している。
 → 根を傷つけ、すべるので、踏まない。



③小富士山頂

(状況) パッチが踏み荒らされている。

→ 植物の生長と損傷の時間の違い。植生保護のため近づかない。



(状況) 石を積上げてケルン状になっている。

→ 土石の移動・採取は禁止されていることを説明。不必要な人工物は作らない。

● 富士山憲章 ●

- 1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県